

富山城跡

現地説明会資料

富山市教育委員会埋蔵文化財センター

発掘調査の成果

(1) 明治～大正 (150 年前～60 年前) 近代の上水道施設

- ・明治～大正の上水道施設である竹樋 4 本 (南北方向 3 本、東西方向 1 本) や木組水路を確認した。

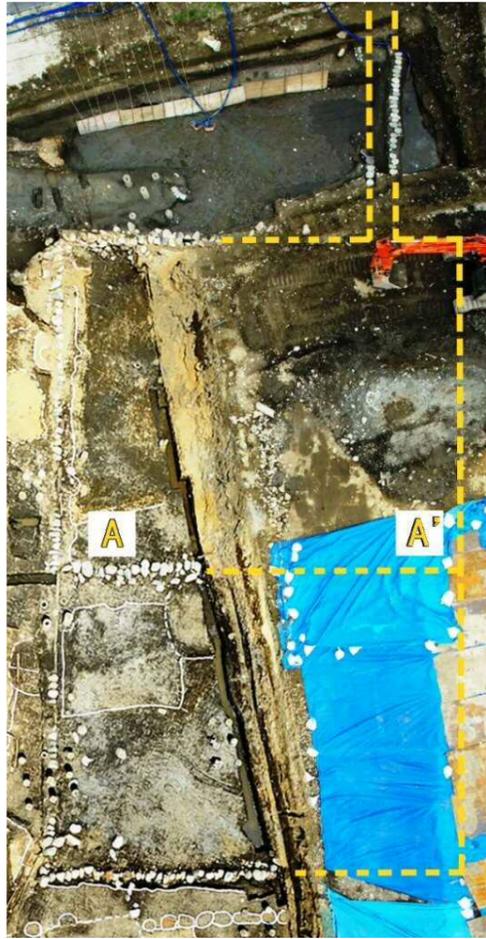
(2) 江戸中期～後期 (300～150 年前) 重臣屋敷の施設

●重臣屋敷の防火水槽か！?

- ・調査区中央に、江戸中期～後期 (18～19 世紀) の水溜状遺構が東西に 2 基あり、9.9m (5.5 間) 離れている。
- ・東水溜状遺構の規模は、南北 27m (15 間)、東西 10m 以上、深さ 50～60cm で、西水溜状遺構の規模は東壁石積 6.5m を検出しただけで、不明である。
- ・水溜状遺構は、上屋建物を持たない常時水が張られていた^(※)施設とみられることから、重臣屋敷に設置された防火水槽かと推測する。類例として、金沢城下町遺跡には、公事場の防火水槽 (3.3m×5.0m×深さ 50～60cm) と推測されている水溜状遺構がある。
- ・東水溜状遺構南半分には、砂が堆積しており、寛政元 (1789) 年に三ノ丸西半分が浸水した神通川の洪水堆積と考えられる。
- ・東水溜状遺構は、洪水後に中央石積 (A-A') を作り、南北 14.4m (8 間) に縮小し作り直された。石積には崩れた天端石が多数転用されている。水溜状遺構は作り直しが必要なほど、重臣屋敷内の重要な施設と言える。

●防火水槽への取水溝か！?

- ・東水溜状遺構の北東には、江戸前期の区画溝 1 が埋没した後に作られた石組溝があり、北から南への勾配を持っている。石組溝は水溜状遺構 (防火水槽か) への取水溝の可能性がある。



東水溜状遺構

※水溜状遺構の構築方法 (専門学校職藝学院 上野幸夫教授の御教示による)

- ①深さ 50～60cm の堅穴状土坑を掘削する。
- ②土坑壁際に 2m 前後の胴木を敷き、玉石を胴木に乗せて片側を浮かす。胴木を相欠きで繋ぐ箇所もある。
- ③胴木の両端付近に角杭を打ち込む。
- ④細長いゴボウ状玉石 3～4 段を合端加工しながら谷積みし、裏込めに栗石などを入れ締め固める。
- ⑤最上段には、天端石として縦 45～60cm×横 30～45cm×高さ 20～30cm のやや大きい玉石を積む。



相欠き



胴木

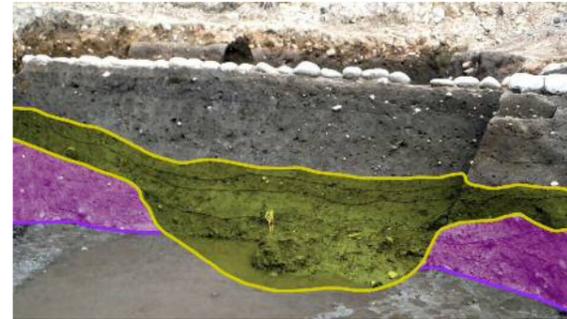
角杭

水溜状遺構の石積は、土坑の壁崩壊防止のために行っており、上屋建物等の土台基礎の石積ではない。胴木・角杭は腐食が進行していないことから、常時水の中にあっただと考えられる。

(3) 江戸前期 (350～300 年前) 重臣屋敷の屋敷境の溝

●絵図に描かれる屋敷境の区画溝

- ・戦国後期の堀 2 が埋没後、再度掘削された区画溝 1 (幅 3.0m、深さ 0.8m) がある。区画溝 1 は、『万治年間富山旧市街図』に描かれる「富田図書」と「吉田長次郎」の屋敷境に一致することから、寛文元 (1661) 年の改修の際に掘削された屋敷境の区画溝と推定する。



堀 2 (紫色)・区画溝 1 (黄色)



『万治年間富山旧市街図』(部分)

個人蔵・富山県立図書館寄託

(4) 戦国後期 (450 年前) 中世富山城期の堀

●平成 27 年度に検出した北堀の規模が判明！

- ・堀 2 (北堀) の規模は、幅 11.7m (6.5 間)、深さ 1.75m、東西約 50m である。堀は西側で北に屈曲、東側で南に屈曲する鉤字 (L) 状であることが分かった。

(5) 室町後期～戦国前期 (550～450 年前) 戦国前期の武家居館跡、室町～戦国期の区画溝

●武家居館の堀跡

- ・堀 4 (幅 3.7m、深さ 1.0m) は、戦国前期 (15 世紀後半) の武家居館を囲む堀跡と推測する。平成 27 年度調査の武家居館を囲む L 字状の堀 3 と同時期のものであり、武家居館が並んで建っていたと考える。

●室町後期～戦国前期の区画溝

- ・堀 4 より古い区画溝 3 (幅 3.0m、深さ 0.9m) は、室町後期～戦国前期の区画溝であり、約 70m 南の平成 20 年度プレミスト総曲輪調査区の区画溝 SD034 (幅 2.5m 以上、深さ 0.7～0.8m) の延長線上にある。



堀 4

●室町後期の区画溝

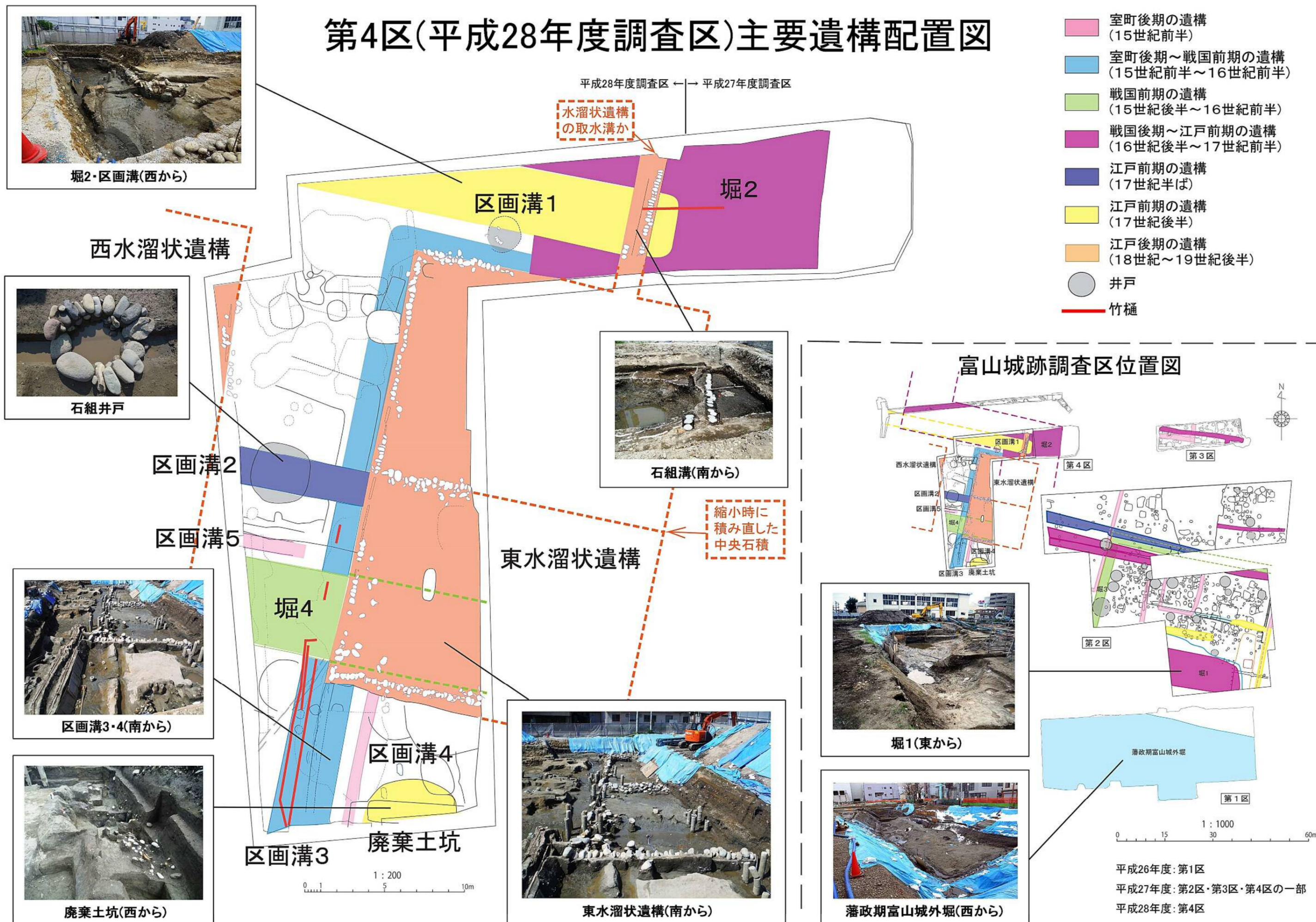
- ・区画溝 4・5 (幅 0.8m、深さ 0.7m) は、室町後期 (15 世紀前半) の区画溝である。

富山城略年表

	年号	できごと	
江戸	天保2 (1831)	三ノ丸侍屋敷の一部を除き全焼 (浜田焼)	藩政期富山城
	寛政元 (1789)	神通川が氾濫し、三ノ丸が浸水	
	正徳4 (1714)	本丸御殿が焼失	
	寛文元 (1661)	旧富山城を修復し、富山藩の城とする	
戦国	寛永9 (1639)	富山藩成立	慶長期富山城
	慶長14 (1609)	富山城焼失。利長は高岡城に移る	
	慶長10 (1605)	前田利長、富山城と城下町を整備	
	天正13 (1585)	豊臣秀吉、越中征討。富山城破却	
戦国	天正11 (1582)	富山城が佐々成政の居城となる	中世富山城
	天文12 (1543)	神保長職が富山城を築城	
	永正3 (1506)	加賀一向一揆が越中に乱入	
室町	応仁元 (1467)	応仁の乱が勃発	
		本丸東端に居館が構えられる	
		荘園「富山郷」が置かれる	

第4区(平成28年度調査区)主要遺構配置図

- 室町後期の遺構 (15世紀前半)
- 室町後期～戦国前期の遺構 (15世紀前半～16世紀前半)
- 戦国前期の遺構 (15世紀後半～16世紀前半)
- 戦国後期～江戸前期の遺構 (16世紀後半～17世紀前半)
- 江戸前期の遺構 (17世紀半ば)
- 江戸前期の遺構 (17世紀後半)
- 江戸後期の遺構 (18世紀～19世紀後半)
- 井戸
- 竹樋



富山城跡調査区位置図

